

平成 26 年度第 2 回仁淀川清流保全推進協議会 議事要旨

日 時 : 平成 27 年 1 月 27 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00

場 所 : いの町 かんぼの宿伊野 1 階 会議室

■ 平成 26 年度第 2 回仁淀川清流保全推進協議会

○ 事務局より委員の紹介

・出席 9 名、代理出席 2 名、欠席 1 名

・委員の交代

吉本 重晴 委員 (仁淀川の自然と清流を守る会 会長)

→ 大下 宗亮 委員 (パートナーシップ交流会 仁淀川分会 座長)

○ 議題

1. 仁淀川一斉清掃の実績について

事務局より、資料に基づき、平成 26 年 10 月 25 日 (土) に開催した仁淀川一斉清掃の実績について説明。

【質疑応答】

(國貞氏) メッセージ一覧で「範囲が狭い」、「箇所が少ない」等の意見があるが？

(事務局) 範囲については、葎が生えているため、事前に刈ってもらってから当日清掃を行っている。そのため、予算等の兼ね合いで範囲が決まる。

また、箇所については、佐川町・越知町会場のように、交互に行う市町村もあるため、全市町村ではなっていない。

(山崎委員) 時間的にも人数的にも全てを網羅するのは難しい。

(井上副会長) 仁淀川清流保全推進協議会の各部会で清掃場所を決めている。来年度、部会で清掃場所を決める際にはこれらの意見を参考に。

(吉永委員) 定着する一方で、人数が年々減ってきている。すそ野を広げるような工夫を。

(井上副会長) 仁淀川町で 5 月に行われる清掃はイベントをプラスしている。この一斉清掃でも何かをプラスしていかないといけない時期に来ているのでは。各部会で検討を。

(高橋委員) 参加者の分析を行うべき。また、地元住民だけでなく、日頃遊びに来ている人達が参加できる時間帯への変更等の検討を。

2. 仁淀川シンポジウムについて

事務局より、資料に基づき、平成 27 年 2 月 15 日 (日) に開催予定の仁淀川シンポジウムの内容について説明。

追加情報として、当日の会場で、写真家 高橋 宣之氏の越知町周辺の風景など

を撮られた写真の展示や池川茶園さんによる茶畑プリンなどの販売を行うことを説明。

(井上副会長) ワークショップについて、先ほど思い付いたが、せっかく来て、話してもらうのだから、今年、私たちはこういうことをしますというのを決めて提案してもらう、そして、発表する事で他の人にも参加してもらうというような会にできたらと考えている。

【質疑応答】

(山崎委員) まとまらなくても、こんな意見があったということを皆に知ってもらうのも面白いのではないか。

(事務局) まとまる・まとまらないは場の雰囲気とファシリテーターの進行におまかせしたい。事務局としては、今回初めての試みであるので、良かった点・反省点などを洗い出し、次回につなげたい。

(高橋委員) 参加者については、テーマ的な難しさもあるので、委員の方からもテーマに関連のある方の掘り起こしの手伝いを。

(井上副会長) 当然一般の参加者にも来ていただきたいが、普段想いを持って活動されている方の交流も一つの目的でもあるので、そういう方を掘り起こして、この機会に出てきて話を聞かせてもらいたい。

○広く、委員からも声かけしていくことを確認。

3. 第2次仁淀川清流保全計画（改訂版）案について

事務局より、別添資料に基づき、第2次仁淀川清流保全計画（改訂版）案について説明。

【質疑応答】

(近澤委員) いの町製紙工業会では、個別の企業になるが排水処理施設の更新を予定している。県の製紙工業会では、漁協と組み、毎年植樹を行っている。40～50年前に見た時は水位がもっと高かった。高知県の雨量が減っているわけではないので、山の保水力が落ちているのでは。戦後の針葉樹一辺倒の植樹の影響もやっぱりあると思う。間伐の問題と儲けにはならないが広葉樹をある程度植えてあげないとなかなか水は残らない。仁淀川で言うと、人がたくさん遊びに来て、工業地・住宅地を通っているが比較的水がきれいということとどうバランスを取るか。そうなると、水の保全を何とかしないといけないが、上流域で材木では儲からない状況で、どうやって水を残していくかが課題になるということを工業会では話をしている。

(井上副会長) 皆伐した後は、同じように針葉樹を植えているのか？

(西森委員) 補助の問題もあり、なかなかバランスが取れていない。民有林が多

い以上、今の価格で木材を手放した場合、次に広葉樹を植えようとする
と費用がかかるのが現状であり、難しい。

(近澤委員) いの町では、木質バイオマスの温泉ボイラーが土佐和紙工芸村くら
うどやむささび温泉にある。地元の間伐材を地元でペレットにして地元
にお金が落ちるようなシステムを。

(大下委員) 第2章のデータのほとんどがH19で終わっており、古く感じる。河
口域部会では最新のデータがあるだろうから、そちらを追加してはどうか
という意見もあった。また、第6章の進捗状況の濃淡差が大きいなど、
ぱっと見でわかり辛いところがある。冊子の見方についてわかりやすい
ように追記する必要があるのではないか。

(事務局) データについては、第2章には追加せず、第6章に進捗状況とともに
最新のデータを記載するようにしている。見づらいという意見について
は、見方の説明の追記等を含め、検討する。

4. その他

その他、情報提供。

(宮地氏) 国土交通省の方でも清掃活動やラブリバーパートナーシップの協定を
行っている。多くの方に協力いただき、感謝している。

(大下委員) 初めてこの会に参加して、多種多様な方々が様々に取り組まれている
ということが改めてわかった。パートナーシップとして、平成18年
から年3回以上の清掃を続けている。実感としては、ゴミが減ってきて
いる。ただ、なくなる。今度のワークショップでもどうしたらゼロ
に近づけられるかということをお話できればと期待している。

(國貞氏) 昨年4月に町長も交代し、移住・定住施策と並んで仁淀川を利用した
観光を大きな柱として取り組んでいる。その中で、上流域から河口域ま
で手を携えて川全体を保全していくという意識が大変重要だろうし、そ
の意識を住民の隅々まで浸透させていくことが川の保全につながると思
っている。また、この会がそういった視点でより有意義な意見交換の
場となることを願っている。

(高橋委員) 今、奇跡の清流、仁淀ブルーということで注目されている。本当に
財産だと思う。これからは、清流保全から地域振興に繋げていくという
考えも必要になるだろう。もっと幅広い観点や取組も出てくることを期
待している。できるだけいろいろな方が参加をして、清流保全の取組事
例がどんどん増えていくということにこの協議会の意味があるのでは
ないかと思っている。もっと意見も出していただき、もっと具体的な取
組に繋げていけたらいいのではないかと思っている。

(近澤委員) 製紙業の代表なので、河川に一番負荷をかけている側だが、各企業の努力や行政の力もあって、ある程度、産業として水を保つというところに来つつある。人がおらず、来ないところの川が綺麗なのは当たり前。人が住み、仕事をし、遊び、それでも水が綺麗というバランスをどうとるかを林業や農業や観光の方々に力を貸してもらいながら、皆で守らないといけない。

(吉永委員) 国有林も戦後植えた人工林がかなり成熟し、民有林と同じだが、どんどんと利用する時期に来ている。現在は間伐を行っているが、今度は主伐もやっていこうという形になってきている。ただ、植えたスギやヒノキを闇雲に切っていくというわけではなく、広葉樹が混ざる山は無理に切らずに維持する方向で、急傾斜地は無理に切ると土砂崩壊につながり、水が濁る原因になることもあるので状態を見ながら、切って回しても大丈夫な山を切り、残す山は残しながら、きめ細かな森林整備をやっていこうとしているところ。森林の整備を通じて、水質の保全に取り組み、清流の保全に寄与していきたいと考えている。

(山崎委員) 一本の大きな幹を作っておけば、枝葉は勝手にできるものだと考えている。川でも山でも、根幹を作ればどんどん仲間が増えてくる。

(細川委員) 水質という点で感謝をしている。漁協前の水質浄化施設を設置していただいたおかげで白濁が大幅になくなった。ただ、欲を言えば、増水時は現在設置されている5基ではオーバーしてしまうこともあるので、解消をぜひお願いしたい。

また、保水という点では、越知町の協力のもと黒森山に植樹を行っている。おかげ様で、6.5ha、約8,000本の植樹ができて喜んでいる。落葉広葉樹も植えることができ、この運動を広げていきたいと思っている。山に関しては、いろいろな制限があるとは思いますが、ぜひとも間伐を進めていただきたい。

なお、植樹母体が漁協から手を離れ、仁淀川流域19団体と流域7市町村で作る仁淀川交流会議をオブザーバーに加えて、仁淀川流域山林保全育成の会を設立し、今後推進をしていく。事務局は漁協が行っている。本年度、延期となった植樹を3月8日(土)(予備日3月15日(土))に行うことになった。また案内をお送りするので、参加をお願いしたい。

(西森委員) 荒廃した山を整備していくことは私たちの使命だと思っている。今後もいろいろな形で進めていきたい。

(中澤委員) 県や流域6市町村の出資の元、仁淀川地域観光協議会を立ち上げ、事業を行っている。平成22年度当初は、事業を知らず程度のものだったが、平成25年度・平成26年度と催行の実績が伴ってきており、多く

の方に仁淀川流域に県外から来てもらえている。本年は8月の天候不良により催行が行われなかったものもあるが、12月現在でほぼ平成25年度と同様の数値で推移をしている。天候不良にしては、仁淀川流域に来てもらえているとみている。また、台湾からも来ていただけた。

観光の新しい動きとしては、越知町やいの町ではカヌーを、いの町波川や河口でサップというサーフィンボードをパドルでこぐという新しい遊びが始まっている。シーズン初めが4～5月なので、また時期がきたら注目していただきたい。

(井上副会長) 宝来荘にも台湾からの方が泊っていただけた。今や、仁淀川は世界から注目されている。ぜひとも世界に誇れる川を保っていきたい。

今日は木質バイオマスの話もあったが、綺麗なだけではそこで生活していけない。木が少しでもお金になるシステムが少しずつできてきて、仁淀川が今後ますます発展していけたらと思う。